

全力結集で挑戦し、
未来を創る

Unite,
Our Challenge,
Our Future

コンテナ不足問題に関する情報共有会合 ～荷主における取り組み～

目次

I JAグループサプライチェーン

II 輸送状況

- ・畜産物
- ・米穀類
- ・青果物

III まとめ

令和3年4月23日(金)
JA全農インターナショナル株式会社



JAグループが一体となったサプライチェーンの構築



Ⅱ(1) 畜産物のコンテナ輸送状況

輸送関係の情報	被害への対応	在庫積み増し対応	空輸切り替え	コンテナ早期回転の工夫	代替手段の活用
<p>(1) アメリカ西海岸向け輸送において、入船遅延、及び現地CY/コンテナヤードでの滞留に伴い、加工日から販売の日数が、3月においては2~4週間ぐらい通常よりも延びた。</p> <p>(2) 船便の到着遅れにより、販売数量が落ち込むことで期間収益が減少した。</p> <p>(3) 洋上/CYで滞留した商品が一挙に現地在庫化される事態も発生し、現地輸入者側販売困難、キャッシュフローの低下が発生。</p>	<p>(1) 現地食肉加工工場において、品質チェックのために検品を強化している。</p> <p>(2) 品質的に使用できないものについては、破棄等対応を実施している。</p>	<p>(1) チルド品については、生ものであるため在庫積み増しは出来ない状況にある。</p> <p>(2) 冷凍品については、和牛の需要に供給が追いついていない状況にあり、在庫積み増しは難しい状況にある。</p>	<p>(1) 破棄せざるおえなかった牛肉においては、欠品を避けるために、空輸にて一時しのぎをおこなった。</p>	<p>(1) コンテナ早期回復の手立ては今のところない。</p>	<p>(1) 空輸の利用のみ</p> <p>(2) コンテナ不足の問題により、コンテナ遅延がおこっているため、この件について補助金を出す等の対応を政府がおこなっていただけると有難い。</p>

Ⅱ(2) 米穀類のコンテナ輸送状況

輸送関係の情報	被害への対応	在庫積み増し対応	空輸切り替え	コンテナ早期回転の工夫	代替手段の活用
<p>(1) 現地の新春フェアに商品が間に合わないことがあり、出荷を取りやめたことがある。</p>	<p>(1) 米は賞味期限が1年ぐらいと見ているため、配送が遅延した場合でも、即、品質問題につながることはない。</p>	<p>(1) 積み増しをしようとしても、コンテナが遅延となっているため、積み増しは進んでいない。</p> <p>(2) 積み増しには、現地の取引先との調整が必要となるため、簡単に積み増しとはならない。</p>	<p>(1) 米の品質特性として、重量が重いことがあげられる。</p> <p>(2) 空輸にすればコストがかかりすぎるため、基本的には実施しない。</p>	<p>(1) コンテナ早期回復の手立ては今のところない。</p>	<p>(1) 緊急でシンガポールとEUに空輸したこともあるが、350~400円/kg船便よりもコストアップした。</p>

Ⅱ(3) 青果物のコンテナ輸送状況

輸送関係の情報	被害への対応	在庫積み増し対応	空輸切り替え	コンテナ早期回転の工夫	代替手段の活用
<p>(1) 船便中心での輸送</p> <p>(2) 船の遅延が昨年秋から蔓延している。</p> <p>(3) 東南アジア向けは1～2週間遅れている状況にある。</p> <p>(4) あまりにも遅れすぎると抜港がよくあるため、船スケジュールが日々変わることになる。</p>	<p>(1) 青果物は、日数がたてば腐っていくものであるという特性があるため、品質に関するクレームを産地には言えず、輸出側の負担となる。</p> <p>(2) 船の遅延により、売り場での品質が悪くなり、購買量・リピートにも影響している可能性があり、販売先との関係悪化の可能性が懸念される。</p> <p>(3) 出発が遅れた場合、予定より現地に遅く到着するため、収穫から販売までの期間が延び、品質劣化したものの販売となることがある。</p>	<p>(1) 青果物は、腐っていく特性があるため積み増しは難しい。</p>	<p>(1) 他社においては、空輸便で対応しているところもあるが、差損は輸出者負担。</p> <p>(2) 空輸便は高騰している状況にあり、また、予約できないこともある。</p>	<p>(1) 輸送スケジュールをより強化して組んでいるものの、上手くいっていない時もある。</p>	<p>(1) 輸送業者のどこに依頼しても同じ状況にあり、良い選択はない状況となっている。</p> <p>(2) 輸送船は、休みなしで動いているが、乙仲・通関・検疫官等の担当者の方々におかれては土日祝日は基本お休みの状況と理解しているが、現状と検討の余地がないのかについてご意見をお聞きしたい。</p>

Ⅲ まとめ

1. 商品の輸送は、船便中心でおこなっている現状にある。
2. 船便の遅れにより、商品の品質劣化への対応が課題となっている。
3. 生ものについて、在庫が積み増しできない状況にある。
4. 欠品を避けるために空輸を行う場面もあるが、その差益は輸出者負担となり、また、空輸費用も高騰している。予約ができないこともある。
5. まだ、この状況が継続している。